

和歌山のピーアール作戦

伍 雨情
教育学部 交換留学生 中国

和歌山と言えば、あまり人気がないイメージがある。近畿地方の一つなのに影が薄いので、よく「近畿のおまけ」と言われている。他府県民から「どこにでもみかん畑がある」と思われているが、和歌山県民も時々「田舎なので、、、」と冗談を言う。

和歌山は本当に魅力がないのか？私はそう思わない。

和歌山で絵のような風景が広がっているし、昔の関西文化も色濃く残っている。自然の宝物白浜温泉があるし、長い歴史を持つ和歌山城もある。しかし、単純に景色と歴史だけを宣伝のポイントとすれば、現在の社会には少し物足りない。そこで、和歌山を世界に紹介するため、多様なアピール作戦が必要だと思う。

まず、和歌山の「和歌」から和歌山をピーアールし始めてみよう。覚えやすい上、和歌山と和歌は昔から深いつながりがあることも伝えられる。和歌山という名前も「万葉集」の中に「若の浦に 潮満ち来れば 瀉をなみ 葦辺をさして 鶴鳴き渡る」という和歌からであるし、和歌山の和歌浦にも「万葉館」がある。そのうえ、日本三大祭の「和歌祭り」も復興されている。一方、最近の観光客は文化体験を好む傾向があるので、日本伝統文化の一つとしての和歌は観光客をひきつけやすい。そのため、「和歌」を和歌山の看板にすることは一番いい選択に違いない。

他には、県内で和歌暗記コンテストを開催するというのはどうだろうか。和歌暗記コンテストは和歌を重視する雰囲気を作ると同時に、古典文化も伝えることができる。和歌を暗記するときに、日本の違う面を見つけられ、日本の理解を深められる。和歌暗記コンテストは日本人の学生に昔の日本文学を顧みさせるのみならず、留学生にも面白いチャレンジとなるであろう。

次に、ゆるキャラの力を活用し、和歌山のピーアールの幅を広げてみよう。ゆるキャラを使い、地域を紹介することは日本独自の文化である。ゆるキャラは地元や故郷への愛を表せ、見た目やしぐさがかわいいので、老若男女にかかわらず、親しまれやすい。一方、ゆるキャラは言葉や文字の通じない外国人にも受け入れられやすい。例えば、熊本県のくまモンは海外でも高い人気がある。千葉県のふなっしーや茨城県のねばーる君もたくさんの愛をもらっている。成功例を参考とし、日本独自の文化ゆるキャラを活用すれば、和歌山の宣伝に役に立てられると思う。ダンスが特技のわかぱんや、愛犬ハチと一緒に和歌山市内の観光地巡りが趣味の吉宗君など、また「変態じゃない」がきもかわいたけのこまん、皆個性あふれており、すでに和歌山で注目されている。現代のマスコミにより、さらに多くのゆるキャライベントを行い、彼らをメディアで露出させれば、和歌山の影響力を世界まで広げられると思う。

和歌山で一年間しか住んでいないのに、和歌山はもう故郷のような存在になった。和歌山県民と同じく、私もより良い和歌山を期待している。この和歌山ピーアール作戦が参考になれば、うれしく思う。



たけのこまん
(出典：和歌山市ホームページ)